

(別紙様式3)

令和3年3月31日

## 事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長野県長野市南長野幅下692-2  
管理機関名 長野県教育委員会  
代表者名 原山 隆一

令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

### 記

- 1 事業の実施期間  
令和2年5月27日(契約締結日)～令和3年3月31日
- 2 事業拠点校名  
学校名 長野県上田高等学校  
学校長名 廣田昌彦
- 3 構想名  
「SDGs未来都市長野」から世界へつなげる信州版ALネットワーク
- 4 構想の概要  
長野県では、これまでも将来WWLコンソーシアムを県内に構築することを可能にするプラットフォームの整備を進めてきた。これらを「イノベーティブなグローバル人材育成のためのプラットフォーム」という視点から再構築又は新規に構築し、信州版ALネットワークを3年後までにWWLコンソーシアムの中核となる組織に仕上げる。  
事業拠点校となる上田高等学校は、SGH校としてこれまでグローバル人材育成にかかる拠点の役割を果たし、21世紀型学力の向上に資する成果の普及を図ってきた。この成果をベースとして「『いのち』を視点に、統合的・全体的アプローチによってSDGsを探究する」ALネットワークを構成する。これにより、地方公立高校の生徒たちに、単独校では得られない教育の機会を与え、時間や場所等の条件を超えて、自らのアクションにより新しい価値や新しい社会を主体的に創造していくことができるグローバル・リーダーの育成をめざす。
- 5 教育課程の特例の活用の有無：有(拠点校)  
1年次 世界史A(2単位)現代社会(2単位)  
→GSI(グローバルスタディーズI)(1単位)  
IR(国際関係論)(3単位)  
2年次 社会と情報(2単位)→GSII(グローバルスタディーズII)(2単位)

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

実施期間（令和2年5月27日（契約締結日）～ 令和3年3月31日）												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営会議		運営組織会議	ALネットワーク会議				運営組織会議	運営組織会議 ALネットワーク会議	運営組織会議 ALネットワーク会議	運営組織会議 ALネットワーク会議	運営組織会議 ALネットワーク会議	運営組織会議 ALネットワーク会議
運営指導委員会、検証委員会	運営指導委員の選定、依頼、会議開催準備			検証委員打ち合わせ	第1回運営指導委員会	検証委員打ち合わせ	運営指導委員会準備	第2回運営指導委員会		運営指導委員会準備	第3回運営指導委員会	検証会議
SDGs プラットフォームの基盤作成		産業政策課を通じてSDGs推進登録企業にサポーターを依頼					知事部局各課、信州環境カレッジ、長野SDGsプロジェクト等との連携		長野県NPOセンターとの連携			
海外進学ワークショップ等		打ち合わせ、準備		第1回海外進学・留学講座					小布施ウインタースクール	打ち合わせ、準備	第2回海外進学・留学講座	
人的配置												

### (2) 実績の説明

#### 【実施体制の整備】

##### a. 体制の整備状況

管理機関では担当者を配置した。拠点校においては、WWL推進係を組織し、教頭を含めて9名体制、共同実施校では、探究科主任、英語科代表、教育課程委員長と教頭の4名体制で事業を進めた。連携校においては、各校で担当者を設置した。

<国の他事業を実施している連携校の状況>

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けている長野高等学校においては、地域協働の担当者をWWLの担当者とし、すでに実施したSGHや現在実施中の地域協働事業で得た経験からWWLに助言するなど、双方の内容の関連を図れるようにした。

また、SSHの屋代高等学校では、SSH係長とカリキュラムデザイン係長と教頭で対応し、SSHの内容との関連を図った。来年はWWL担当係を位置づける予定。

##### b. 情報共有体制の整備

(1) ALネットワークの高等学校間で定期的な会議や打ち合わせを年間6回実施。授業に支障なく参加できるよう、放課後の時間帯に1時間程度と短時間に設定し、オンラインで実施し、高校生国際会議等の事業に係るアイデアの共有や情報交換の機会とした。

(2) 拠点校及び管理機関では本事業に係るウェブサイトを作成し、随時情報発信を行った。

(3) ALネットワーク内での情報共有を目的にWWL通信を発行し、各校の取組を発信した。

##### c. 管理機関の長、拠点校等の校長が果たした役割

構想の実現に向けて事業が効率よく進むために、主として管理機関はALネットワーク

内外の連携を進め、拠点校では、SGHの成果を生かしたカリキュラム開発を担当することとし、それぞれの長はこれらの取組を主導した。

○管理機関の長

- ・事業全体の計画や進捗の管理、助言
- ・SDGsプラットフォームの構築に向けた外部機関との連携
- ・先取履修の導入に向けた長野県立大学等高等教育機関との調整
- ・国の動向や他県の先進事例の情報収集
- ・ALネットワークや本事業に関する諸会議の開催
- ・教員向け研修会、生徒向け特別講座の実施 等

○拠点校等の校長

- ・校内での推進体制作り
- ・WWL事業の教員に向けた説明
- ・「GS」カリキュラムの開発と成果報告会の実施
- ・STEAMカリキュラム開発に向けたデザインシンキング授業の導入
- ・海外連携校との連絡、プログラムの実施
- ・新教育課程の導入に向けた研究
- ・海外研修プログラムの実施 等

d. 本事業の実施に際し、運営指導委員会の開催実績及び検証するために収集した資料

<運営指導委員会>

運営指導委員として、県内外から事業推進のために必要な知見を持つ6名を選定、依頼した。令和2年8月10日、11月20日、令和3年2月6日にオンラインを併用して、運営指導委員会を実施した。

(1) 運営指導委員

小村 俊平 (座長)	ベネッセ教育総合研究所 主席研究員
荒井 英治郎 (副座長)	信州大学 教職支援センター 准教授
讃井 康智	ライフイズテック株式会社 取締役
坪谷 ニュウエル 郁子	東京インターナショナルスクール理事長
南 希成	長野県立こども病院 感染症科部長
森 茜	公益財団法人国連大学協力会 事務局長

(2) 開催実績

①第1回

期日 令和2年8月7日 (金) 14時から17時まで

実施方法 オンラインにて実施

内容 事業の説明

生徒発表

取組の留意点について意見交換

②第2回

期日 令和2年11月20日 (金) 14時から16時30分まで

実施方法 オンラインと上田高等学校での集合会議のハイブリッドにて実施

内容 取組報告

生徒発表

授業参観

「育てる生徒像」を育成できる取組となっているか意見交換

③第3回

期日 令和3年2月6日 (土) 14時から16時30分まで

実施方法 オンライン

内容 1年間の取組報告

生徒発表

1年間の取組と今後の取組について助言、意見交換

<検証のために収集した資料>

- ・生徒による1年間の自己評価と事業評価
- ・GPS-Academic
- ・教職員アンケート
- ・保護者アンケート
- ・英語外部検定試験

#### e. 卒業後の進路と成長の過程を追跡把握する仕組の構築について

拠点校においては、全卒業生に対して、メールアドレスの提供を依頼し、卒業後もWWLの活動に協力してくれる生徒を募り、ピア活動・探究活動に対するアドバイザーの発掘につなげており、卒業生が成果報告会のメンター等の役割を果たしている。同様の仕組みをそれぞれの学校で構築していることから、管理機関としては、今後それらを連携させることを検討していく。また、各校において、3つの方針において卒業後の進路調査をすることになっているので、その仕組を今後構築していく。

#### f. 留学生等の日本での学習や生活を支援する体制について

拠点校においては、台湾の姉妹校等の訪問を積極的に受け入れ、交流の機会を持つようにしている。本年度は対面交流が叶わなかったため、オンラインにより2年生全員が台湾と英語で交流を実施した。また、韓国教職員招へいプログラム（ユネスコ・アジア文化センター主催）を受け入れ、韓国教職員と交流する中で両国の文化的な差異を理解した。さらに、JICE（日本国際協力センター）と連携し、地域に居住する外国人が抱える課題について当事者と対話するカリキュラムを実施した。

共同実施校では、フランスよりAFSの長期留学生を受け入れている。コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の予定より期間が短くなったものの、令和2年11月末より令和3年7月末まで受け入れる予定である。日本語を少し勉強しての来日であったため、授業は日本人の生徒と同じように参加している。生活面、学習面で不自由があるときは、ホストファミリーに加えて、教員や生徒が支援している。

令和2年度は留学生がほとんど来日できなかったため、学校ごとの対応となったが、今後は、ALネットワーク全体で受入れ家庭を募り、プラットフォーム化していく。

#### g. 学校全体の授業改善や関係機関の教職員や生徒の意識改革を促した状況について

拠点校では、以前から、学習指導係の設置、学習指導係、WWL（SGH）係、進路指導係から成る進路・学習部の創設等により、WWLと授業、学び、進路指導が関連性をもって機能する体制を整えてきている。本年度も、外部機関との連携や、フィールドワーク、探究的な取組を実施していることから、通常の授業の中でもペアワークやICTを活用した発表など、主体的・対話的な取組が自然に行われている。

#### 【財政等支援】

##### a. 管理機関が、自己負担額として、計画段階よりさらに計上したもの

###### ○小布施ウィンタースクールの実施

海外大学生との共同生活による学びをとおして、語学力はもとより多様な価値観やグローバルな視点、STEAMの視点からの見方・考え方など様々な資質・能力を育成することを目的にオンラインプログラムを希望参加者13名で実施した。

## b. 人的又は財政的な支援、研修やセミナー等の実施状況

### (1) 人的又は財政的な支援

#### ○ グローバル講師

県直接雇用のALTの中から、特に指導力に優れた者を特別非常勤講師（グローバル講師）として拠点校に配置。単独で授業を行うことを可能にしている。

### (2) 研修やセミナー等

#### ① 「探究と評価」研修会

ALネットワーク教員を対象に運営指導委員でもある信州大学荒井英治郎氏によるオンライン講座を、第1回「探究学習における『評価』とは何かー評価は可能・必要か」、第2回「『パフォーマンス課題』とは何かーどのように評価するのか」、第3回「『ルーブリック』とは何かー何を評価するのか」の3回シリーズで実施した。ALネットワークから各回20人程度の参加者があった。校内研修会と位置付けて複数で受講した学校もあった。

#### ② 新しい「学びの指標」研修会

管理職向け説明会・意見交換会を実施。

#### ③ 「高校生学びのフォーラム長野」伴走者フォーラム

7月と11月に探究活動を指導する教員向けに実施。主体性を育む探究に向けた指導法について学ぶとともに、他校と情報交換する機会とした。

## c. 国の委託が終了後も事業を継続的に実施するための計画

- (1) 探究的な学びのためのSDGsネットワーク、高度な学びのための先取履修を含めた高大連携のネットワーク等を新規に構築し、既存のそれぞれのプラットフォームとともに、全県の生徒が希望により参加できるものとして活用できるようにしていく。
- (2) 県独自の留学支援事業「つばさプロジェクト」の継続。
- (3) 学びサポーターリストの更新、情報提供。

### 【ALネットワークの形成】

#### a. ALネットワーク運営組織の実績

カリキュラム開発拠点校、共同実施校、カリキュラムアドバイザー、管理組織それぞれの担当者で運営組織を作り、連絡会を行った。年度の後半11月からは、毎月連絡会を持ち、今後の事業の進め方の打合せや情報交換を行った。

令和2年5月19日 第1回打合せ

令和2年6月5日 第1回ALネットワーク会議

令和2年8月7日 第1回運営指導委員会・第2回ALネットワーク会議

令和2年10月13日 第2回打合せ

令和2年11月20日 第2回運営指導委員会・第3回ALネットワーク会議

令和2年12月4日 第4回ALネットワーク会議

令和3年1月8日 第5回ALネットワーク会議

令和3年2月6日 第3回運営指導委員会

令和3年3月25日 第6回ALネットワーク会議

#### b. 情報共有体制の整備、新たな協働事業の開発、有効な事業実施

ALネットワークの高等学校間で、発表会、講演会などの情報を提供し合い、希望する生徒が参加できる体制を整備した。拠点校、共同実施校の海外オンライン研修プログラムに連携校の生徒が参加した。

c. 国際的な分野を学ぶ国内外の大学への進学や国内外のトップ大学等への進学、海外留学等の促進に寄与したこと。

(1) 海外進学ワークショップの実施

NPO法人グローバルな学びのコミュニティ・留学フェロシップによる海外進学・留学講座を生徒向けに3回、教員向けに2回実施した。

(生徒向け)

拠点校、共同実施校をメイン会場としてオンライン併用で夏に2回、オンラインで冬に1回講座を実施した。ALネットワーク内外の高校生約100名が参加した。

(教員向け)

海外進学や留学を目指す生徒の指導に資するため、教員向け講座を初めて実施した。

(2) 新たな指標の活用による進路選択への転換

長野県版「新しい学びの指標」の導入に向けて、説明会、意見交換会を実施。令和3年度に試行・検証を行う。

(3) グローバルな活躍をしている講師による講演会

①学校で以下の講演会を実施した。可能な場合は、ALネットワークからも参加を呼びかけている。

拠点校：JICA職員 竹内岳氏、NPO法人ICAN 直井恵氏

共同実施校：旅行作家 齋藤政喜氏

連携校（長野高校）：JAXA 澤田弘崇氏

②運営指導委員のOECD日本イノベーション教育ネットワーク事務局長でもあるベネッセ教育研究所主任研究員の小村俊平氏による、ALネットワーク特別講座を実施。

(4) 生徒の自主活動の推進～教科の学習以外の「個人的経験」をする機会を保障

①共同実施校で「県高校生徒会交流会」を5月と1月に実施。オンラインの強みを生かし、これまで地区内で行われてきた交流会の参加範囲を全県に広げ、県内40校から140人が参加した。文化祭運営の悩みを共有する機会となった。

②拠点校では、課題研究からアクションを起こす生徒が増えている。

例：・友人に呼びかけファストファッションの着なくなった衣類を集めてフリーマーケットを実施。

・地域の小学校で手作りせっけんを使って手洗い指導。

(5) ポートフォリオの作成指導

拠点校にてコアリッションアプリケーションについて研究を進めるとともに、全生徒に学校独自のポートフォリオの作成指導を行った。

(6) 県立高校「未来の学校」構築事業

飯田風越高校を国際的な教育プログラムを研究する実践校に指定し、研究を進めている。

d. ALネットワーク運営組織に専任者からなる事務局を設置した状況。本事業のカリキュラムを開発する人材の配置状況。

(1) 運営組織の状況

管理機関		担当者を配置
拠点校	WWL推進係	管理職、各教科を選出母体に8名
共同実施校	WWL係	管理職、WWL委員会（探究科主任、国際交流委員会、教育課程委員会学習係の3名で構成）

(2) カリキュラムアドバイザー

長野県教育委員会高校改革推進役の内堀繁利氏に依頼。運営指導委員会やALネットワーク会議において、広い見地から助言を得た。

(3) グローバル講師

I B等の指導経験豊富な県直接雇用のALTをグローバル講師として拠点校に配置。2年生のGSのうち1単位を英語で行うものとし、グローバル講師が中心になってカリキュラム開発にあたっている。

e. テーマと関連した高校生国際会議等の開催準備状況

- (1) 令和4年6月に現在拠点校で実施している「北陸新幹線サミット」をベースに高校生国際会議を実施予定である。令和2年度は準備としてALネットワーク内でイメージの共有を図った。ALネットワークに参加している学校のうち、すでに国際会議の実績のある学校の実践例や各校の海外交流の実績を共有した。
- (2) 上田高等学校で課題研究発表会「北陸新幹線サミット」を実施。今年度はコロナウイルス感染症の影響で初めてZoomを用いてオンラインで実施。国際会議をオンラインで開催する場合のシミュレーションとなった。画面越しのディスカッションではあったが、オンラインならではの活発な意見交換がなされた。

期日	令和2年6月13日
テーマ	「はなれていても思いは届く 話し合おう、未来のために」
分科会テーマ	I 信州発いのち・健康フォーラム II 地域の課題から地域創生を提言する。 III グローバル課題から解決策を提言する。
助言者	I 蓮見順平氏（佐久医療センター小児科医長） II 大室悦賀氏（長野県立大学教授） III 瀧澤郁夫氏（JICA人間開発部次長）
参加校	県内高校 ALネットワーク他(10校) 県外高校（6校）

- (3) 次年度、教員及び生徒の高校生国際会議実行委員会を設置。会議の内容や運営について拠点校とともに、令和4年に向けて準備していく。

f. 社会に開かれたフォーラムや成果報告会などの実施について。

(1) 学習成果報告会

<拠点校>

2月に拠点校で学習成果報告会を実施した。代表者が全体会でプレゼンテーションを行い、2年生全員が1年生及び、発表者以外の2年生を観客にしてポスターセッション形式で2年間の課題研究の成果を発表し、ディスカッションを行った。第3回の運営指導委員会と同日に開催し、運営指導委員や、ALネットワークの職員にオンラインで指導を受けた。共同実施校生徒からの発表もあった。

<共同実施校>

1月に「Kenryo Researchers Grand-Prix2020」として普通科・探究科合同の課題探究発表会を実施。拠点校を含め3校からも参加があった。地元の企業19社が協賛し、探究活動を評価し、賞状と企業からの記念品を贈った。

(2) アカデミックプレゼンテーション

<拠点校>

7月と10月に拠点校にて、アカデミックプレゼンテーションを実施。日頃の探究から発展した自主活動や、海外での学びについてプレゼンテーションを行った。いずれも聴衆から熱心に質問が出され、活発に議論が行われた。発表の様子はALネットワークにも配信した。

第1回 7月11日(土)Zoomにて

- ①アメリカ留学報告

- ②ベルギーでの留学体験発表
- ③カンボジア井戸プロジェクト
- ④別所線の活性化に関する研究発表
- ⑤オンラインポストインスタディーツアー発表

第2回 10月10日(土)上田高校にて

テーマ「グローバルとローカルの視点から課題解決を考察する」

- ①「ボランティア活動を通して」
- ②「格安ファッションのカラクリ～江戸から学ぶ消費者のあり方～」
- ③「外国ルーツの子供達の学習支援」
- ④「習慣は確実に感染を防ぐ～子供たちの手洗いから学ぶ～」

(3) 高校生学びのフォーラム長野 12月12、13日

『マイプロジェクトアワード長野県 summit』

- ・NPO法人「カタリバ」が支援、例年実施。昨年度から長野県教育委員会主催。
- ・拠点校は3名の生徒が参加、内1名が本選に進出、長野県教育委員会賞を受賞。
- ・他にもALネットワーク参加校から16プロジェクトの参加があった。

(4) 全国高校生フォーラムへの参加

文部科学省主催、全国のWWL等指定校在籍生徒が集まり、発表及び議論。

- ・拠点校及び共同実施校から一組ずつ参加。
- ・拠点校発表タイトル「あらゆる上田市在住外国籍市民を包括的に支援する多言語アプリ」
- ・共同実施校発表タイトル「信州つばさプロジェクト」について
- ・共同実施校の発表が審査委員長賞を受賞した。

#### g. 情報収集・情報提供

- ・SDGs探究のプラットフォーム

高校生の探究的な学びに際してフィールドワークや研究への助言を行う「学びサポーター」を募集。知事部局産業政策課の協力を得て長野県SDGs推進企業に本事業の周知を行ない、41社の申込みがあった。さらに、環境政策課を通じて信州環境カレッジにも同様に連携を依頼し、14社(団体)の申込みがあった。計55社の「学びサポーター」の情報は一覧表にしてALネットワーク各校に配布。探究活動等の連携先として活用できる体制を整えた。すでにフィールドワークを受け入れた例もあった。

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

### (2) 実績の説明

#### 【研究開発・実践】

#### a. 設定したテーマ

「いのちをテーマに据えたSDGs探究」

##### (1) 授業内での取組

1年のGSIでSDGsについて学び、課題研究の際に自分のテーマとSDGsを関連づける。

##### (2) JICA・ICAN国際理解協力（「世界が100人の村だったら」）

1学年全員実施。クラスごとにワークショップを実施後、講義で世界の実状を学ぶ。

2年生がファシリテーターとして参加。10月8日。

##### (3) 1学年課題研究入門講座（オンライン）

各専門分野14名の講師に、研究内容やその手法を伺う。8月28日。

#### b. 体系的かつ先進的なカリキュラム研究開発

拠点校で計画していたフィールドワークはコロナ禍の影響があり、1年生の県内フィールドワークは形を変えて実施。2年生の首都圏フィールドワークは中止したが、代わりにオンラインでできることを模索し、以下のプログラムを実施した。また、同窓会と連携し、2年生の課題研究テーマと同窓生の専門分野をマッチングし、オンラインまたはメールによるインタビューを行った。

##### (1) 1学年県内フィールドワーク

- ・訪問先を昨年までの県内2か所を訪問から1か所に絞り、PBLの手法を取り入れ、訪問先から事前に課題を頂き、生徒が取り組み、現地で発表する方式とした。受動的になりがちだったこれまでの方法より、能動的に取組み、発信力の向上や探究活動の深化に繋がった。
- ・訪問先と探究課題

訪問先	主な探究課題
JICA長野デスク	取り組んでいるSDGsアクション。
佐久大学	ごみ問題。母子手帳の普及。
長野県立大学①	高齢者が住みやすい地域づくり。
寿製薬	製薬会社の取組をまとめる。
上田市多文化共生推進協会	海外に行き、その国の特徴や文化を知り、日本との違いを感じるためその国でどう行動したらよいか。
NPO法人 相乗りくん	気候変動を考える。
亀清旅館	文化遺産に指定された塩田平と棚田の活用を提案する。
日なた堂ベーカリー	地域経済が回るようにする取組を提案する。
八十二銀行	八十二銀行で行うべきCSR活動を提案する。
シナノケンシ株式会社	モーター産業とは？
信濃毎日新聞社読者センター	上田市の25年後を考える。
長野県環境保全研究所	身近な気候変動の影響を調べて動画作成。
バリューボックス	普段の生活で困ることの解決策
シスラボ・スエヒロ	地球温暖化に対する施策について調べ、企業における二酸化炭素削減への取組を考える。
長野県立大学②	SDGs 1～3から一つを選び実際の取組を調べる。
マリモ電子工業株式会社	SDGsに役立つ工業（電気）製品を考えてみよう。

(2) ワークショップ

①韓国教職員招へいプログラム

ACCU（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）主催。1月26日。自作の学校・地域紹介ビデオを放映、日韓の文化、教育について意見交換 [生徒22名、教員8名参加]

②JICE連携授業

- ・ JICEと協働し、「内なる国際化」をテーマに全1年生に実施。
- ・ JICE職員の講義、現地連絡調整員（日本在住の外国人）による自己紹介・課題提起後、自分たちにできることについてグループワーク。2月16、17日。

c. 外国語や文理両方の複数の教科を融合した内容を、外国語を用いながら探究活動を行う「グローバル探究」等の教科・科目を設定した状況。外国人講師等を活用した実績。

SGH指定期間から開発している以下の科目の充実を図った。

(1) IR（国際関係論） [1年全員 3単位、学校設定科目]

- ・ 「世界史A」「現代社会」を学校設定科目とし再編成し、3単位で行った。
- ・ 地歴公民科の基礎知識を習得させグローバル課題の理解と考察を深めた。
- ・ GSIと連携してグローバル課題についての背景まで含めた多角的な学習。

(2) GSI（グローバルスタディⅠ） [1年全員 1単位、学校設定科目]

- ・ 「世界史A」「現代社会」を学校設定科目とし再編成し、1単位で行う。
- ・ 「IR」と「総合的な探究の時間」「英語」と科目横断・融合型授業を展開。
- ・ 課題研究の基礎となる学習。

(3) GSIⅡ（グローバルスタディⅡ） [2年全員 2単位、学校設定科目]

- ・ 「社会と情報」2単位を学校設定科目とし再編成し実施。
- ・ 生徒個々の課題研究について、多角的に検討させ探究を深めた。
- ・ 共通の課題を持つ生徒同士がグループ学習を進めた。
- ・ 台湾オンライン交流やGS報告会を通して研究発表の実践的な取組を行った。
- ・ 2単位のうち1時間はグローバル講師（外国人講師）の授業とし、英語を用いて探究活動を行った。

(4) GSIⅢ（グローバルスタディⅢ） [3年希望者 1単位、学校設定科目]

- ・ 選択者は増加単位分として、放課後や休日などを利用して調査研究を行う。
- ・ 実情に即した政策提言でその影響評価まで含めて研究を行った。
- ・ 「北陸新幹線サミット」（オンライン）を主催。6月13日開催 参加16校、参加生徒51名。他、各校教員、講師、管理機関職員等参加
- ・ 他のWWL指定校が主催する発表会で取組の成果普及と共有を図った。

d. 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等

コロナ禍の影響により、海外への渡航は全面的に中止となった。オンラインの利用により、海外研修になるべく同等の成果が得られるよう、以下の代替プログラムを実施した。

(1) オンライン台湾交流プログラム（2学年 8クラス 合計319人）【拠点校】

- ・ 実際に現地へ赴き実施する台湾高級中学訪問がコロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったため、2クラスごとに訪問校をオンラインでつないで意見交換、プレゼンテーション等の学校交流プログラムを行った。地元の特徴や学校生活の紹介、「オンライン調理実習」の実施等生徒のアイデアも取り入れて実施した。
- ・ 交流校4校 国立科学工業園区実験高級中学、国立新竹女子高級中学、国立苗栗高級中学、私立延平高級中学

(2) ポストンスタディーツアーオンラインプログラム 【拠点校】

例年は2週間ほどアメリカ・ボストンを訪れて研修を行うが、本年度はコロナ禍の影響

でオンラインプログラムに変更して研修を行った。

- ・世界最先端の知性に触れ、今後必要になる学びを理解する。
- ・2020年7月に2020年3月の渡航予定者等16名が参加。探究成果を米ハーバード大の教授等に英語でプレゼン、質疑応答、指導助言を受けた。
- ・2020年12月～3月に同プログラムを実施。本校7名、連携校3名、計10名参加(12月～基礎研修、3月17～20日に現地とのセッション)

(3) ヒューマン・アクト・イン・マニラ オンラインプログラム【拠点校】

SGH指定期間から3月に1週間フィリピンを訪れるプログラムを実施してきたが、コロナ禍の影響でオンラインでの代替プログラムを実施した。

- ・NPO法人ICANが進める支援活動を学ぶための体験的なプログラム。
- ・3月上旬に海外交流アドバイザーの事前学習、3月17～20日に現地とのセッション。

(4) カンボジア井戸プロジェクト【拠点校】

- ・生徒の自主活動から始まったプログラムで、文化祭のバザーで資金を集め、カンボジアに渡航して井戸を掘り、現地に寄付までを行うプログラム。
- ・代々後輩に引き継ぐ形で、毎年3月に組織解散、4月に新組織発足。
- ・2019年度は、井戸2基分の資金を集めたが、コロナ禍の影響で渡航はできなかった。本年度も活動の広報、書き損じ葉書収集等の資金集めは継続している。

(5) ネパール オンライン スタディツアー【共同実施校】

- ・共同実施校で予定していたカナダ語学研修、マレーシア・シンガポール研修の代替として生徒の課題解決能力の向上を目指し、オンラインを活用した研修を実施した。
- ・10月から12月まで5回で構成。
- ・ALネットワークからの参加者も含め26名の参加があった。

e. 文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をしたことについて

(1) KDDI との連携による授業開発(デザインシンキング授業)

KDDI と連携し、STEAM人材のマインドセットに欠かせないデザインシンキングを学ぶ(2年生全員)。

- 第1回 6月(これからの時代に必要な能力は何か)
- 第2、3回 9月(デザイン思考体験ワーク～マシュマロチャレンジ～)
- 第4回 11月(課題発見 デザイン思考をはじめよう)
- 第5回 3月(ライフデザインについて)

(2) 令和4年からの新教育課程編成に、現在希望者の選択科目としているGSⅢを全員履修科目とすることなどの研究を進めている。

f. 学習活動が、構想目的の達成に資するよう工夫したことについて工夫すること。

- (1) イノベティブでグローバルな人材の育成にむけ、KDDI と連携し、デザインシンキングに関するカリキュラム開発を行った。
- (2) ALネットワークの構築に向け、長野県立大学、佐久大学、信州大学へのフィールドワークを実施し、連携を深めた。
- (3) 毎年開催実績がある北陸新幹線サミットを、2年後に実施する高校生国際会議の母体として国際色を加える計画を立てた。

g. 高大連携による大学教育の先取履修を可能とする取組

- (1) 県内大学・高校連絡懇談会において、事業概要を説明し、協力を依頼。
- (2) 県内にある10大学を訪問し、各大学の高大連携担当者に「探究的な学習のサポート」「講座の提供」「先取履修に向けた検討」を依頼した。
- (3) 長野県立大学については、令和4年度からの先取履修の導入に向けて協議を継続していく。

#### h. より高度の内容を学びたい高校生が学習できる環境を整備したこと

学校では学べない高度な内容に触れる機会を提供することを目的に、ALネットワークから参加希望者を募り特別講座を実施した。今後も同様の高度な内容に触れる機会を増やしていきたい。

##### ・生徒向け特別講座

11月に運営指導委員のOECD日本イノベーション教育ネットワーク事務局長でもあるベネッセ教育研究所主任研究員の小村俊平氏による、ALネットワーク特別講座を実施した。ALネットワークの3校から40名ほどがZoomで参加し、世界の教育についての講演をお聞きし、講師と対話した。教育系の探究学習を行なっている生徒、教育系志望の希望者が参加した。世界の教育の最新の動向について知ることができ、好評だった。講座中の講師への質問やコメントなどのチャットへの書き込みが40件以上あり、生徒たちの主体的な参加が見られた。

##### ・各校における高度な学び

各校で、大学との連携講座や大学教授の指導を受けるプログラムが実施されている。今後、ALネットワークからの参加が可能となるよう研究していく。

### 8 目標の進捗状況、成果、評価

#### a. イノベティブなグローバル人材の育成状況について。

コロナ禍で、拠点校の探究活動は2年次において台湾研修旅行や首都圏フィールドワークができず、大きな試練に直面した。そうした中で年度末の1年間の振り返りアンケートの2年生データを見ると、「グループで司会や意見調整をする能力」の高さを実感する生徒が1年次に比べ18%、「日本語で提案などのプレゼンテーションができる」能力の高さを実感する生徒が33%増加した。これはKDDI連携授業でのマシュマロチャレンジや日頃のグループ学習、さらにはGS報告会での全員によるポスターセッションなどの成果と思われる。また、「課題研究」、「DDP」のスキル向上を実感する生徒が着実に増えた。

1年生も「グループで司会や意見調整をする能力」の高さを実感する生徒が昨年度に比べ10%、「日本語で提案などのプレゼンテーションができる」能力の高さを実感する生徒が16%増加した。これも県内フィールドワークに向けてのグループ単位での問題解決学習を大幅に増やした成果かと思われる。

しかし、2年次での台湾研修旅行が実施できず、2年生では「海外研修スキル」の向上を実感する生徒が昨年より30%下落した。

こうした中、現状変革への意識を持つ生徒も増え、米国留学後に日本の芸術にかけるお金の少なさを実感した生徒が県内アーティストのデザインや県産の原料や労働にこだわるTシャツ作りを提言したり、海外の児童労働問題に気づいた生徒がファストファッションのフリーマーケットを開催するなどの自発的かつ積極的な活動が見られた。

#### b. ALネットワークが果たした役割等。

##### <管理機関>

- ・長野県がすでに構築している既存のプラットフォームとSDGsに取り組む団体と高校生の探究活動を「学びサポーター」の形でつなげた。
- ・定期的なALネットワーク会議を実施し、情報交換や研修の機会の提供。
- ・各種会議の開催、関係機関との連絡調整。
- ・大学の先取履修に向けての大学との協議。
- ・管理機関主催のプログラム（生徒向け、教員向け講座）の実施。

##### <拠点校>

- ・文理融合のカリキュラム開発。

- ・オンライン海外研修（ボストン、マニラ、台湾）の実施・共有
- ・探究的な学びへの取組。
- ・「北陸新幹線サミット」「成果報告会」の実施。

#### <共同実施校>

- ・オンライン海外研修（ネパール）の実施・共有。
- ・探究的な学びへの取組。
- ・成果発表会「Kenryo Researchers Grand-Prix2020」の開催。

#### <連携校>

- ・探究的な学びへの取組。
- ・拠点校や共同実施校のプログラムへの参加。
- ・各学校の取組の共有

#### <協働機関>

- ・KDDI 県教育委員会と包括連携協定を結び、県内の学校の学びを支援した。ALネットワークでは、拠点校、共同実施校、連携校でプロジェクトを実施した。
- ・JICE 拠点校において講座を実施。コロナ禍で海外との交流が足りない中で貴重な機会となった。
- ・知事部局各課 産業政策課、環境政策課によって関係機関への事業を紹介などの協力を得た。

#### <カリキュラムアドバイザー>

- ・事業全体への指導・助言。

### c. 短期的、中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況等について。

令和2年度の目標の進捗状況については、コロナ禍で特に海外研修は計画した通りのプログラムの実施はできなかったが、オンラインを活用するなどして、代替のプログラムを実施し、本年度の目標はほぼ達成された。他は予定通りの進捗の状況であるが、未だ先取履修や国際会議、文理融合のカリキュラム開発などは、研究・調整の段階であり、形になるのは来年度以降となる。

中期的及び長期的に設定した目標については、予定通り進捗している。

### 9 次年度以降の課題及び改善点

#### ✓本事業に関する管理機関の課題や改善点。

- ・大学の先取履修については、長野県立大学を中心に協議を始めている。履修の方法、履修内容、単位習得について等を引き続き検討していく。
- ・令和4年6月に実施予定の高校生国際会議に向けて、生徒実行委員会を組織し、内容や方法、参加者等について具体的な計画を立てていく。

#### ✓ALネットワークの課題や改善点。

- ・ALネットワークの各学校の取組を共有し、協働していくことに更なる課題があることから、更に連携を密にして、生徒同士、教員同士が繋がれる機会を作っていく。

#### ✓研究開発にかかる課題や改善点について記載すること。

- ・海外研修の計画がコロナ禍により大きく影響を受けている。オンラインでの代替を実施しているが、実際に現地を訪れるメリットは、オンラインではカバーしきれないものであるところから、引き続き実施の可能性を探っていく。
- ・令和4年度の新教育課程編成に向けたカリキュラムの構築については、まだ研究が必要であり、拠点校を中心にALネットワークの情報共有をしながら構築していく。
- ・事業の検証を依頼した慶応義塾大学清水唯一朗教授からは、生徒のグローバル・ローカルな課

題に対する意識が高まっていることは成果と言えるが、生徒がコミュニケーション能力に不安を持っていることが課題の1つであるとの指摘をいただいた。生徒の自己評価を高めるためにピア評価の導入、教員だけでなくOBや地域の人材を活用していくこと等の助言を生かして改善を図っていく。

**【担当者】**

担当課	学びの改革支援課	T E L	026-235-7435
氏 名	宮下 美和	F A X	026-235-7495
職 名	主任指導主事	E-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp